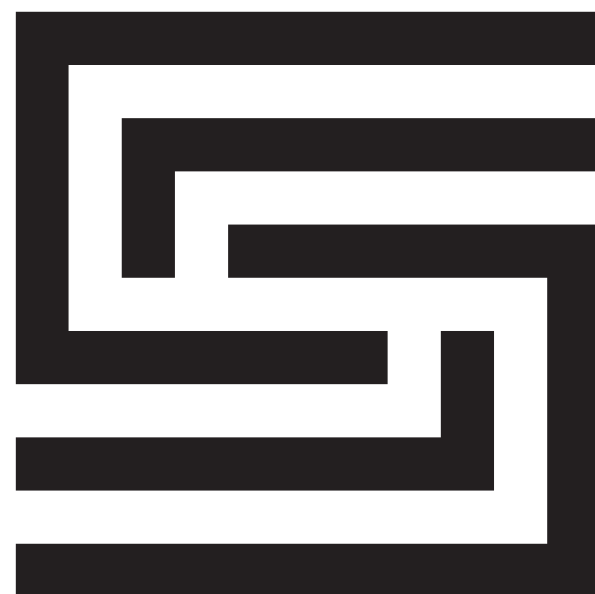




100TH
1925-2025

SEKIYA DRIVING SCHOOL



時代を超えて、人と車を結ぶ想い

新潟関屋自動車学校

〒951-8166 新潟市中央区関屋浜松町22番地
TEL.(025)265-0101(代) FAX.(025)265-0707 URL. <https://www.sekiyads.co.jp>



紡いできた長い歴史 その歩みを次の100年へ。

新潟関屋自動車学校は令和7年、創立100周年を迎えました。
大正14年に創業して以来、幾多のドライバーを送り出し、
新潟県で最も長い歴史を持つ自動車学校となっています。
目まぐるしく変化する時代のなか
挑戦を続けてきた私たちの歩みをここに振り返ります。

創業期



初代 綿井 兵吉

自動車に魅せられた綿井兵吉
新潟にハイヤー・バス会社を設立

創業は大正14年。創業者は綿井兵吉（ひょうきち）でした。明治28年に石川県羽咋郡栗ノ保村（現羽咋市）に生まれた兵吉は、船乗りとなつて船長も務めた後、新潟に定住しました。

兵吉は仕事で横浜に行った際、訪問先で生まれて初めて自動車に乗せてもらう経験をしました。当時は自動車を所有するのは大使館や中央官庁、財閥、華族などに限定されていた時代。黒塗りのクライスラーの乗り心地に兵吉は心底感動し、新潟に戻ると自動車関係の仕事をするための準備を始めました。

まずは自身が免許を取るために自動車練習所に通い始め、その間にシトロエンを1300円で購入。免許取得後にはシボレーとマックスウェルを1台ずつ購入すると、大正14年、新潟市にハイヤー・バス会社「綿井自動車商会」を設立しました。

会社は佐渡汽船―白山駅―新潟駅―中央埠頭の路線の権利を持ち、最盛期には17台ほどの車を所有していました。まだ人力車も走っていた時代。榎谷小路や古町の通りを、砂塵を舞い上げて輸入車が走る様子は、新しい時代を予感させる風景だったに違いありません。



昭和初期の頃

続けて自動車練習所を設立
松林を走る林間コースが特長

兵吉は綿井自動車商会設立から数カ月後の大正14年11月、自動車練習所の「綿井自動車練習所」を創業しました。場所

は旧新潟競馬場からほど近い、新潟市関屋金鉢山。松林の中に教習コースがあるという、全国的にも珍しい環境でした。

新潟市では、綿井自動車練習所ができる少し前の大正14年6月から、現在の新潟トヨタが「新潟自動車商会」という社名で自動車練習所を運営していました。その後昭和7年、縁あってその自動車練習所と合併。「新潟自動車学校」と改称し、現在地に移転しました。

昭和12年頃の学費は、2カ月で卒業する本科は入学金3円。授業料70円、教科書代が約5円。新潟県内はもとより隣県などからも多くの入校希望者が訪れていました。昭和初期には、既に1000名以上の免許取得者を輩出していたといいます。面倒見の良い兵吉は、自宅の2階を入学希望者の寄宿舎にして、兵吉の家族とみん



新潟自動車学校と改称した頃の校舎とコース



車には「新潟自動車学校」の文字が書かれています

戦時下の苦難は
車・燃料不足部品を集めて
「県産第一号車」を製造

創業期で最も苦労した時期は、やはり戦時中でした。昭和11年の自動車製造事業法の公布によって、自動車の国産化が推進されますが、資材不足は深刻化。国産車が製造されてもほとんどが戦地向けで、一般向けの車は手に入りませんでした。

一方、入校希望者は次々訪れるため、教習車が足りないという事態になりました。日中戦争が始まって2年後の昭和14年、東京に何度も足を運んで中古車をやっ

と手に入れても間に合わず、ついに兵吉は中古部品を買い集めて、自分たちで組み立てることに。毎週土曜の午後の実習時間を作業に当て、何週間もかかって完成させました。いわば新潟県産第一号の車です。車体を震わせながら、人の駆け足ほどのスピードで走る車でしたが、たくさんの運転手を育ててくれました。

もうひとつの困難が燃料不足。昭和13年には自動車のガソリンが切符制になり、ガソリン1滴は血の1滴という標語が登場。昭和16年には石油燃料の使用が禁じられ、代替燃料として木炭ガスが用いられるようになりました。その後、炭が統制品になると、薪やコークス、カーバイドなどを燃料にしようと挑戦しましたが、それらも入手できなくなり、切羽詰まった昭和18年頃、運よく新潟県で天然ガスが産出。燃料問題からは解放されることになりました。

当時の入校希望者の多くは、バスやタクシー会社から派遣されてくる人たちで、男性が徴兵されていくため、女性の教習生も多かったということです。

普及期

道路交通法の施行により 自動車学校も新たな制度に移行

昭和35年、それまでの道路交通取締法が廃止となり、道路交通法が施行されました。自動車学校に関しては、それまで「指定自動車練習所」だったものが、都道府県の公安委員会が指定する指定自動車教習所に制度変更となりました。昭和38年に名称を「新潟関屋自動車学校」に変更していた当校は、施行から4年後の昭和39年に新潟県公安委員会から指定を受けました。指定車種は大型自動車と普通自動車。初代設置者および初代管理者には綿井兵吉が就任しました。

その年の6月16日、新潟市を大地震が襲いました。マグニチュード7.5を記録した「新潟地震」です。市内各地で液状化現象が起き、多くの被害が出るなか、当校



新潟地震ではコースに被害も

鉄筋コンクリートの新校舎完成 創業50周年を迎える

昭和43年4月、鉄筋コンクリート造の新校舎が完成し、学びの環境はより良いものへ。昭和50年には創業50周年を迎えました。昭和56年には伸行会長が東京から帰郷して入社。家族三代が机を並べて事業経営にあたっていた時期です。そのころの新潟関屋自動車学校の規模は、新潟県内に36校あった自動車学校のうち真ん中よりも少し下くらい。指導員の数や教習生は現在の4分の1ほどだったようです。

昭和59年、兵吉が満89歳で逝去。幾多の困難をアイデアと情熱で乗り越えてきた精神を受け継ぎ、会社は時代の変化に合わせて新たなチャレンジを次々と展開していくこととなります。



昭和43年 新校舎の様子

発展期

時代に合った改革のスタート 2階建てコースが誕生

昭和62年、新潟関屋自動車学校に2階建てコースが誕生しました。当時、世の中はバイクブームが沸き起こり、自動車免許のニーズが高まっていました。しかし、現状のコースではバイク教習のためのスペースを確保することが難しく、周囲の土地を買収しようにも既に多くの家が建っている状態でした。そこで発案されたのが2階建てコースです。そこには、社員が毎年苦労してきた冬の除雪作業も軽減されるというメリットも考慮されていました。完成してみると除雪はも



二階コース増改築工事



大型二輪教習指定前選手選考会の様子

少子化を見据え 県外向けに合宿教習を開始

時代が平成に変わり、平成4年12月から県外からお客様を迎える「合宿教習」に取り組み始めました。世の中では、平成2年の「1・5ショック」（1989

年の合計特殊出生率が1・57であったことから生まれた言葉）をきっかけに少子化が注目され、問題が議論され始めた中での決断でした。伸行会長は「少子化で地元の子どもたちが少なくなっていく。合宿教習をやっていかねければ、この先は難しいと思いました」と当時を振り返ります。

平成4年9月に合宿用宿舎と食堂を完成させ、翌平成5年7月には女性専用の宿泊施設も運用を開始しました。食堂では手作りのできたて料理を提供し、お客様に大変好評となりました。そこには「食べ盛りの若い子たちが来るのだから、お腹

いっぱいおいしいものを食べさせてあげたい」という親心がありました。

その後、伸行会長は「新潟を合宿教習のメッカにしよう」と発案。同じように地元教習生の減少に悩む新潟県内の自動車学校に声をかけ、平成7年に新潟指定自動車教習所協同組合を立ち上げました。

首都圏まで轟いたBMW教習 自然災害、感染症にも立ち向かう

平成5年12月、教習所をBMWが走り始めました。教習車に高級外車を採用したことは、大きな話題となりました。



落ち着いた時間を過ごせる宿舎の部屋



食堂外観



食堂 ダイニングルーム



BMWの教習車は大きな話題に



平成21年、新型インフルエンザ大流行
(平成21年1月13日 新潟日報掲載)

平成16年には新潟県中越地震が発生
(平成16年10月24日 新潟日報掲載)

新時代シフト期

100年のその先へ。

さまざまな改革が始まる

平成27年に創立90周年を迎え、大きな節目となる100周年を前にスタートしたのが校舎・合宿寮・食堂の建て替えプロジェクトでした。この年、帰郷して専務に就任した伸洋社長が中心となり、さまざまな改革が進んでいくことになります。伸洋社長は大学卒業後、証券会社を経

て、関東エリアの自動車学校で2年間勤務。自動車学校経営のノウハウを学び、また、全国各地の自動車学校の様子を見る機会を得るなど、貴重な体験を積んできました。

まず取り組んだのは人事評価制度の構築でした。それまで明確な昇給制度がなかったことから、社員全員が納得できる制度の確立を目指したのです。

新潟関屋自動車学校のロゴマークも一新しました。イラスト調で柔らかな印象だったものから、モノクロのスタイリッシュで、高級感のあるデザインに変更。東京の

デザイナーに依頼して制作したもので、そこには「新潟関屋自動車学校のブランド化」という狙いがありました。

シンプルでスタイリッシュ 新校舎グランドオープンへ

校舎や合宿寮・食堂を建て替えるにあたり、苦労したのは工事の進め方でした。教習を続けながらの工事になるので、敷地の中の空いているスペースにまず食堂を建て、完成したら旧食堂を壊し、その跡地に校舎を建てる、といった具合に、1年ごと3期に分けて進めていきました。

校舎のデザインも、モノトーンでシンプルなテイストに統一。館内に表示されている文字や数字は、ロゴを手掛けたデザイナーに依頼して制作されたオリジナルのフォントが使用されています。同じ頃、ホームページの予約システムも変更しましたが、お客様の使いやすさを意識し、洗練された印象に仕上げられています。

合宿寮は、全室シングルルームとなりました。日中、教習で疲れる分、夜はひとりでゆっくり休む時間を過ごすという考えからでした。

こうして平成29年11月に食堂、平成30年9月に校舎、令和元年10月に合宿寮が



開放感のある受付

完成し、順次供用が開始されました。ブランドイメージは高級路線を取る一方、地元で流れるテレビCMは、県民の皆さんに慣れ親しんだサウンドロゴを継続。それを際立たせるため、一見、自動車学校とは関係のないような内容のCMを狙っています。令和2年に予定されてい

た東京オリンピックを意識し、スポーツ経験のある社員に登場してもらったバージョンなど、ユニークさが目を引きました。



ラウンジ

感染症による突然の休業と 押し寄せてきた入校希望者

全ての建て替えが終了し、待望のグランドオープンを迎えた令和2年1月。年始から急拡大を始めた新型コロナウイルス感染症に対し、まず7都府県に緊急事態宣言が出され、続いてその対象が全都道府県に拡大されました。自動車学校は休業要請の対象となり、当校も4月22日から5月6日までの15日間、完全にクローズすることになりました。社員は自宅待機となるなか、当時の社長・専務・校長の他、営業及び経理責任者のみが出社。止められない業務を行いながら、校内を見て回ったり、人のいない校舎を撮影して時を過ごしました。



令和7年 優秀安全運転事業所表彰

その後、通学教習は再開しましたが、合宿教習は5月中を休業。その後6月に合宿教習を再開すると続々と入校申し込みがあり、その数字は前年比200%になりました。これは自粛要請で学校に通えない首都圏の大学生や専門学校生の多くが、この機会に免許を取ろうと東京の自動車学校に殺到して3〜4カ月待ちとなったために地方の合宿教習を活用する流れを受けたものでした。

社内では、お客様がここで受ける印象が将来の入校希望者に繋がる、という意識を共有。そして、その後も入校希望は途切れることなく、未曾有の感染症危機を無事に乗り越えることができました。

大正、昭和、平成、そして令和と、激動の歴史のなか、100年の歳月を歩んできた新潟関屋自動車学校。関わってくださった人々、多くの縁への感謝を胸に、また新たな歴史を刻んでまいります。

写真で振り返る新潟関屋自動車学校

私たちは、100年という長い年月の中で多くのドライバーを送り出してきました。
これまでの新潟関屋自動車学校の歩みと軌跡を
時代ごとの写真とともに振り返ります。



昭和62年に2階コース等の増改築工事が完了し、自動二輪車教習が追加されました。



大型二輪教習の指定を取得するための選手選考会。



平成4年頃の校舎の様子。この頃から合宿教習を開始しました。



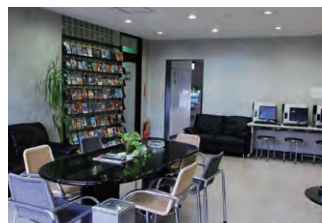
昭和61年頃の学校周辺。



平成4年に合宿寮(ファースト・ドム)と食堂が完成。



カードキーやランドリールームも完備し、安全・安心の環境が整っていました。



合宿寮は清潔感があり、お客様が集中して免許取得できる過ごしやすい環境。



平成4年頃の受付の様子。



昭和15年の第一期卒業生。



昭和39年の新潟地震では、校舎やコースに大きな被害が出ました。



昭和初期には縄を張ったコースで教習をしました。



昭和43年頃の教習コースの様子。



昭和43年、新校舎が完工。



平成19年7月には新潟県中越沖地震が発生。学校への直接的な被害は全くありませんでしたが、入校者の減少など大きな影響がありました。
(平成19年7月17日 新潟日報掲載)

平成26年 校舎・合宿寮・食堂 建て替え計画プロジェクト

90周年を機に、校舎・合宿寮・食堂の建て替えプロジェクトが発足しました。
お客様の安全と安心を第一に、誰もが気持ちよく学べる場所を目指して、
これからも私たちは、時代とともに変化しながら、
地域と歩む自動車学校であり続けます。



新潟の空を染める夕景は一日の疲れを癒してくれます。



お客様とスタッフの食事を支える厨房。



お客様が集うくつろぎのダイニングルームです。



専用の食堂は皆さんの憩いの場所です。



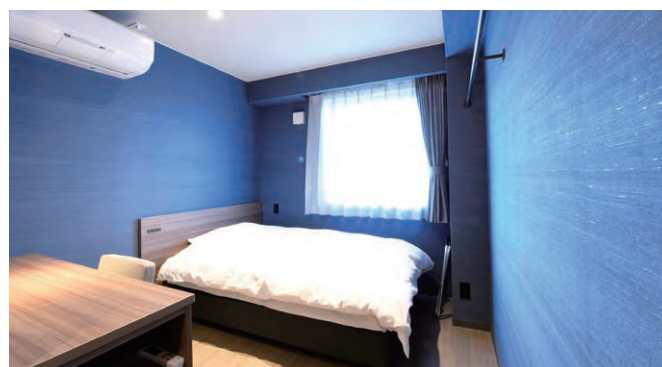
令和7年の2階コースと校舎、合宿寮、食堂の全景。



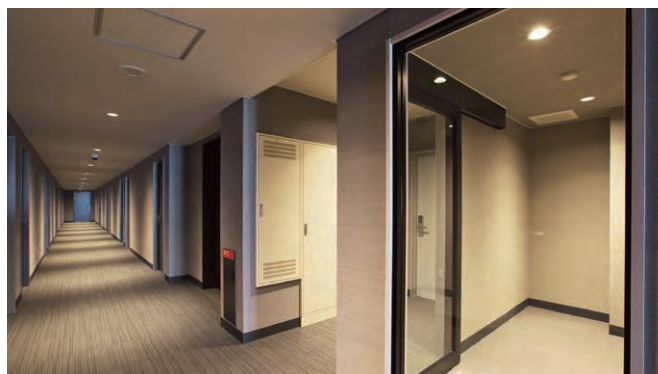
清潔感のあるロビーでお客様を迎えます。



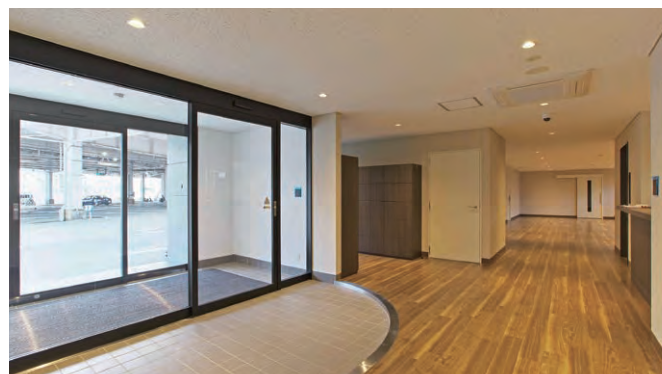
合宿生活を支えるランドリールームを完備しています。



100名収容、全個室の部屋の様子。



各部屋オートロック完備でセキュリティも安心です。



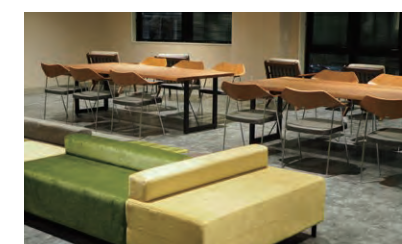
明るく開放的な合宿寮エントランス。



安心して利用できる
女性専用待合室。



個別学習ができるスペースを確保し、
お客様が集中できる環境を整えています。



教習の合間もくつろいでいただける
待合室。



大小さまざまな教室を用意し、
用途に応じた授業に対応。

教習車の移り変わり

世代ごとに記憶に残る教習車。

車が珍しかった時代から戦時中を経て現在まで、私たちは車とともに成長を遂げてきました。

懐かしい写真とともに、その時代の空気をまとった車の表情をたどります。

教習生を乗せた車は、いつもその時代の主役でした。

平成5年～



BMW

若者に人気がある車で差別化を図ろうと、教習車にドイツ製高級車BMWを導入。全国的な話題となり、指導員も4倍の80人に増えた。

昭和47年頃



トヨタ クラウン

昭和30年頃



トヨベツ クラウン・セドリック

昭和10年頃



シボレー 1929年型

戦前、戦時中は米国製のシボレーが教習車として長らく活躍した。昭和初期にはすでに1,000人以上の免許取得者を輩出しており、その多くがこの教習車で練習していた。

1993

1989

1980

1972

1960

1955

1939

1935

2026

2012

平成24年



トヨタ カローラ アクシオ

現在



トヨタ カローラ アクシオ

教習車をすべて国産車に切り替え、再びトヨタ車を導入。運転しやすく、安全性も確保されている「カローラアクシオ」は、教習車としても高い人気を誇る。

昭和55年頃



トヨタ クラウン

平成元年頃



トヨタ クレスタ

年代不明



輸入車

昭和35年頃



日産 セドリック

昭和14年頃



新潟県産車第一号自社製造車

中古部品を集めて組み立てた教習車。一般向けの車が入手できず自動車学校の教習車が不足している状況にあって、この奇抜な車が大いに活躍した。

SEKIYA DRIVING SCHOOL



石田 郁流

営業企画部 主任

当校には常に環境の変化に合わせて対応し、切り替えていける能力を持った方々が多くいます。そうやって変わりがながら歩んでいるからこそ、100年続いているのだと感じますね。働く環境も、職員が仕事をやりやすいように整えてあると思います。最近ではデジタル原簿が導入されて、システムが大幅に変わりましたが、それも時代に合った変化だったと思います。

自動運転技術が発達するなど、車を取り巻く環境や未来もまた変わっていきそうですが、一方で自動車学校が安全運転者を育てるために教えなければいけない根本は変わらないと思います。個人としても、そうした基本を忘れず、どんな場面でも役に立てるように頑張っていきたいと思っています。



山崎 健作

指導部 係長

新潟関屋自動車学校の学科合格率の高さは自慢のひとつですが、これは指導員の全員が、お客様一人ひとりに対して真剣に向き合い、指導に取り組んでいる賜物だと思います。

指導の中では、私がかかる言葉ひとつでお客様の行動や考え方も変わってしまうこともあると思うので、間違った方向にいかないようにと意識をしながら向き合っています。実は私が免許を取った時、最初は運転があまりうまくなかったので、苦手な人の気持ちも分かります。お客様が落ち込んでいるときは、私もそうだったよ、なんて話もしたりします。一人ひとりに合った指導を日々考え、より良い指導ができるように、これからも努力していきたいです。



伴内 優一郎

指導部 主任

これまでの諸先輩方が頑張って築いてきてくれたものがあり、そのおかげで新潟関屋自動車学校に通いたいと思ってくださるお客様がいることで、100周年という今があるのだと感じています。

当校の温かい雰囲気は大きな魅力のひとつだと思いますし、私自身も教習の時間をできるだけ楽しんでもらえるような振る舞いや、言葉遣いなどを意識しています。卒業の際のアンケートで印象に残った指導員として書いてもらえることも多いので、こちらの思いも伝わっているのかなと思っています。先輩や同僚の皆さんは素晴らしい方ばかりなので、良いところを見習って自分のものにして、より良い指導ができるよう精進していきたいと思っています。



丸山 貴生

営業企画部 部長

100年の歴史の中で、教習の理念は昔から今日まで変わっていないと思いますし、「変わらない部分」と、新しい手法を取り入れていく「変わる姿勢」のバランスの良さが100年続いているポイントだと思います。

教習も担当してきましたが、一番驚いたのは出張に行ったとき、大宮駅で教子から声をかけられたことです。突然の再会で「先生に教わったブレーキの使い方は今も忘れずにやっています。ありがとうございます」と言われました。偶然でしたが、とてもうれしかったですね。

自分の成長を考えた時に上司を追い越すのは難しいと感じているのですが、自分なりの良いところを磨く努力をして、新たな100年に向けて力になっていきたいと思っています。



安中 俊之

指導部 係長

2020年の東京オリンピックの時期に、アスリート経験者でCMを作ろうということで、剣道着姿で出演したのは良い思い出です。指導部は職員間の仲がよく、コミュニケーションを取り合って教えていこうとする気持ちが強いのだと思います。指導員が多い分、多種多様な教え方があるところも当校らしさだと思います。

教習中苦労していたお客様から「先生がいなかったら、僕は卒業できなかったと思います」と言われたときは、本当にやっていてよかったと思いました。出勤途中に、教えた子が初心者マークを付けて運転しているのを見かけることもあり、がんばっているなと感じますね。

これから先も、まだ持っていない資格を取り、今以上に頼ってもらえる指導員になることが目標です。

次の100年に向けて
すでに始まっている、次の100年に向けた歩み。
ともにその道を進むスタッフがこれまでの思い出を振り返り、
これからの想いを語りました。



SEKIYA DRIVING SCHOOL



歌代 和幸

指導部 部長

当校は規模が大きく、歴史ある自動車学校であり、それだけ多くのドライバーを送り出していることは自慢できますし、その指導者を育てていることも自慢できることのひとつだと思います。私は通常教習や検定業務のほか、後進の育成にも当たっていますが、入社してくる社員は若いですから、挨拶など社会人としての接遇も身につくような指導や育成を心がけています。

職員一人ひとりが自分の役割を全うし、それを次の者に引き継ぐという流れが、ずっと続いてきての100年だと思えます。次の時代に向けて、それを今後もしっかりと続けていかなければいけないと、気を引き締めているところですし、私も長く教習業務を続けていきたいと思っています。



薄田 澄夫

指導部 指導役

20代の頃に、新聞に載っていた募集を見て履歴書を送りました。今では一番キャリアが長い社員になりました。働いていると病気になるなど、いろいろありますが、会社は常に相談にのったり、対応してくれて、従業員を大切にしてくれていると感じます。

昔の教習は厳しく、「できるだけやらせる」という進め方だったので、教える方も教わる方も大変だったと思います。当校がここまで発展したのは、合宿教習を始めたことが大きかったと感じます。ここは路上教習を行うコースも混み過ぎず、かといってガラガラでもなく、環境がとてもいいと思います。これからは多くの人に支持される学校であり続けたいと思います。



椎谷 愛

営業企画部 係長

入校する方へのオリエンテーションやフォローなどを担当しているので、お客様と直接顔を合わせる機会も多いですが、気持ちよく楽しく過ごしていただけたらいいなと思いながら、仕事に向き合っています。

新潟関屋自動車学校は丁寧に教えてくれる指導員の皆さん、きれいな校舎、おいしい食事が提供される食堂など、全てが魅力的です。これからはさまざまな人が集まる場所になっていったらうれしいですし、より魅力ある学校づくりをしていく一員として、私も頑張っていきたいです。



安彦 光

調理職 主任

お客様からは「教習が大変なときも、食堂に来たら忘れられます」「ごはんがあるから一日がんばれます」といった声をいただけるのですが、とてもありがたいですし、やりがいを感じますね。

合宿教習にきて、最初はひとりで食事をしていた人が、日を追うごとにグループになって食べていて、楽しそうにしている様子を見ると、「友達ができたんだな」と思って、こちらまでうれしくなります。

職員の皆さんもいつも元気で楽しそうにしている、その雰囲気の良いのが当校の魅力ですね。お客様はいつもキラキラしていて、刺激を貰っているので、私も多くの人に元気を届けていきたいと思っています。

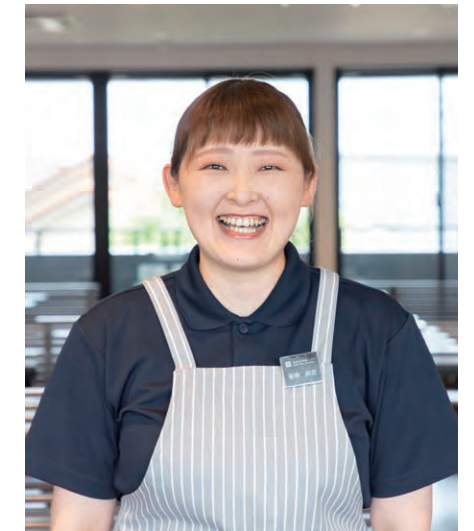


横山 菜々子

総務部 係長

私は当校に通って免許を取ったのですが、その時に指導してくださった指導員の皆さんの印象がよかったので、中途での入社を決めました。入社してから、そのイメージとのギャップはなく、気持ちよく働かせていただいています。スタッフみんなの人柄がよく、地域に愛される自動車学校だったからこそ、100年続いてきたのだろかなとも思います。

これからの未来に向けて、ここで働く皆さんを支える総務部の一員として、職員が日々快適に働くことができるように、サポートを続けていきたいと思っています。今の部署で活かせる資格の取得なども考えているので、そうした自分のスキルアップも頑張っていきたいと思っています。



後藤 麻衣

調理職 係長

食堂は働いている皆さんの仲が良く、笑いが絶えない働きやすい職場です。お客様や社員の皆さんに満足いただける食事を提供できるよう、職員一同がんばっています。大盛りで食べてくれたり、残さず食べてくれる様子がうれしくて、やる気につながっていますね。オリジナルの関屋ドレッシングはタマネギをすりおろすところから手作りで、フレッシュな味が自慢です。

食堂棟が新しくなったときは、広くなって空調も整い、オープンが2台になって、仕事しやすい環境にモチベーションが上がったことを覚えています。オープンキッチンなのでとてもフレンドリーな空間ですし、学校のアットホームな雰囲気づくりにも一役買っていると実感しています。

新潟関屋自動車学校 創立100周年記念式典

2025年12月28日
(ホテル日航新潟)

100周年を祝う記念式典には、時代を知る懐かしいOB・OGの皆様やご家族など、たくさんの顔が集いました。

メモリアルムービー上映で幕を開け、ボーカルグループ「ひなた」のライブ、サックスとピアノの生演奏などで会場は温かな空気に包まれました。

じゃんけん大会では豪華景品をかけて大盛り上がり。ビュッフェ形式の料理も振る舞われ、思い出と感謝が交差する特別な一日となりました。



新潟関屋自動車学校は多くの皆様に支えられ、創業100年を迎えることができました。昭和56年に別の業界から新潟に戻り、祖父が興した自動車学校の経営に携わり、変わりゆく時代に合わせ、さまざまな挑戦がありました。いつのときもお客様を我が子のように思い、居心地よく過ごしていただくことを大切に歩んできました。振り返りますと、度重なる自然災害や、新型インフルエンザにコロナウイルスなどは辛いものがありました。初めての経験で先も見えず、誰もが何に

どう取り組めば分からないなか、職員の皆さんが一丸となって一生懸命に対応してくれたことに、とても感謝しています。経営は4代目社長に引き継ぎ、これからはまた若い力の時代です。新校舎やデジタル化など、時代に合わせた変化や進化への取り組みを見るにつけ、職員の皆さんならば、また新たな歴史を紡いでいくと確信しています。関係者の皆様には、今後も末永いお付き合いのほどをどうぞよろしくお願い申し上げます。

ともに一丸となって困難を乗り越えてきた
職員の皆さんに感謝いたします。



会長
綿井 伸行

目指すのは社員が
楽しく働ける環境づくり。
時代に合わせ、
新潟関屋自動車学校の
存在感を高めてまいります。

代表取締役社長
綿井 伸洋



このたび、新潟関屋自動車学校は創業100周年という節目の時を迎えました。これもひとえにお客様、関係各所の皆様からのご愛顧・ご支援、そして歴代職員の皆様のご努力の賜物であると深く感謝申し上げます。大正、昭和、平成、そして令和と、さまざまな困難や苦勞を乗り越えながら、歴史を紡いできた100年であったと思います。

私は90周年を迎えた2015年に新潟に戻って入社し、2020年7月に4代目社長に就任させていただきました。その間には今後を見据え、新潟関屋自動車学校のブランディング、校舎・合宿寮・食堂の建て替えプロジェクト、昇級・給与制度の見直しなどに関わり、会社を次なるとして進めるための基盤づくりができたと思っています。時代に合わせ変化すべきところは変化させ、当校の良さである人の温かさを感じるサービスは変わることなく、次の100年に向けた歩みを進めているところです。

経営者として私が重視しているのは、先代の会長も折に触れ言葉にしていた「働いている皆さんを大事にする」ということです。良い接客・指導の実現は、社員が満たされて楽しく働けることが大前提だと考えます。これからは、働く一人ひとりが自分なりの働きやすさを追求できるような、個々にカスタマイズできる働き方の構築を目指したいと思っています。給与やシフト管理は複雑になりますが、大企業ではなく当社のような規模の会社だからこそ、そうした仕組みづくりが実現できるはずで、社員の皆さんが安心して働ける、社員を守るような会社にしていきたいと思っています。

世の中は少子化が進み、若い世代は車への興味が薄くなってきていると言われます。業界としては大きな課題ですが、大切なのはそうした流れの中で淘汰されずに残っていくことです。残っている体力づくりをしながら、お客様に支持してもらえるサービスを徹底していくことが、いまの私たちがやるべきことです。気持ちよく教習を受けていただくことでお客様の運転技術も向上し、ひいては社会のためになる仕事だと思います。

今後も努力を重ねてまいりますので、末永いお付き合いのほど、よろしくお願い申し上げます。

新潟関屋自動車学校ならではの
チームワークで伝統を次代へ。

令和7年8月に第10代管理者を拝命し、新潟関屋自動車学校の伝統を次代に繋ぐ責任を感じているところです。職員の皆さんは人柄が優しくて、自分の役割をしっかりと捉えている人が多く、チームワークで仕事に取り組んでいるところが強みのひとつだと思います。

これまでの100年には高度成長期、ベビーブームなどの良い時期もありました。現在の少子化を考えると、今後はこれまでとは違った100年になると思います。しかし、デジタル化をはじめ、大きく変わ

ろうとするやり方と私たちのチームワークを持つてすれば、今までの何倍もの力を発揮できるはずだと考えています。また、教習業務を理解し、受け入れてくださっている地域の皆様に支えられてきたことも間違いありません。子どもたちや企業の皆様への交通安全指導などの役割も、引き続き果たしていきたいと思っています。当校を選んで来てくださった方々を大切に、きちんとした教習を行って、安全な運転を身につけて卒業していただけるよう、今後も職員一同で努力してゆく所存です。



専務／管理者
山本 一比呂



胸を打つ篇 (2017年～)

スタッフに協力してもらい、少林寺拳法と剣道で、「あなたの心を撃ち抜く」を伝えるメッセージです。



剣道かと思ったら篇 (2021年～)

「めえ〜ん! きょがとれる」「どお〜う! どの合格率県下1位」のキャッチフレーズ。



選ばれた篇 (2022年～)

プレゼンテーションでの重大発表のようす。「何のCMだろう?」と思わせる演出で、「選ばれています!」を伝えています。



子猫語りかけ篇 (2024年～)

とにかくかわいい子猫ちゃんです。ただソファでごろごろしているだけなのに、とにかくかわいくて見てしまいます。

TV COMMERCIALS

ユニークな発想と親しみやすい表現で、多くの人の記憶に残る新潟関屋自動車学校のTVCM。その歴代シリーズには、学校の姿勢や地域とのつながりがユーモアを交えて表現されています。



何かが始まりそうな場所篇 (2013年～)

青空がさわやかな関屋浜を舞台に、ひなたのお二人に出演してもらいました。



絆つないで未来へ篇 (2015年～)

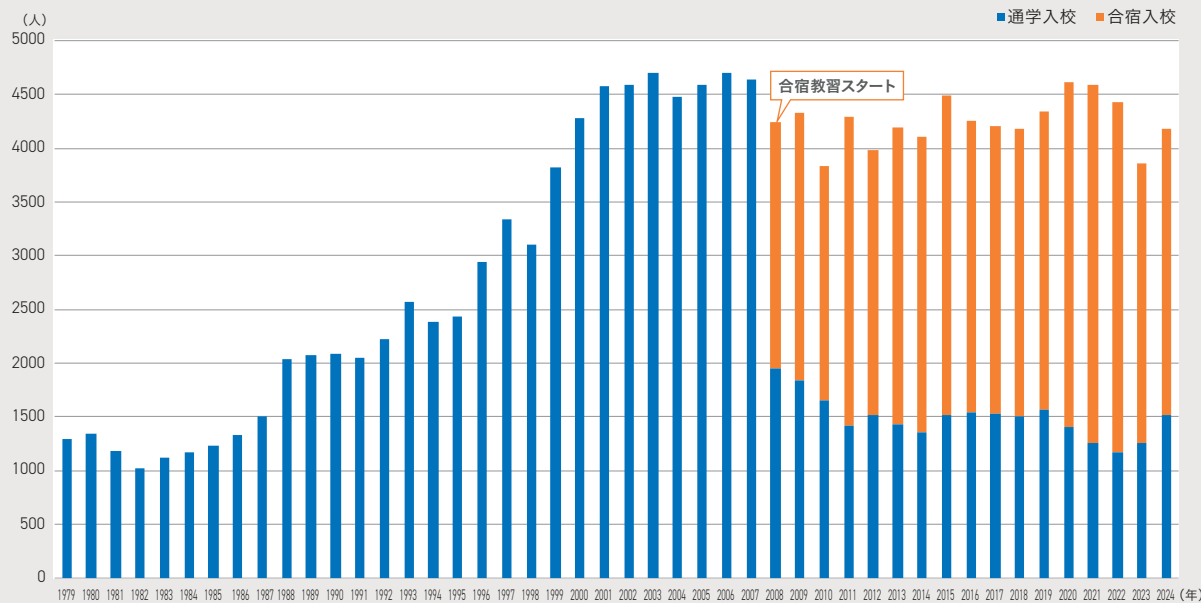
歴史をたどる写真から現在につながる絆へ。未来に向かう希望をさわやかに表現しています。



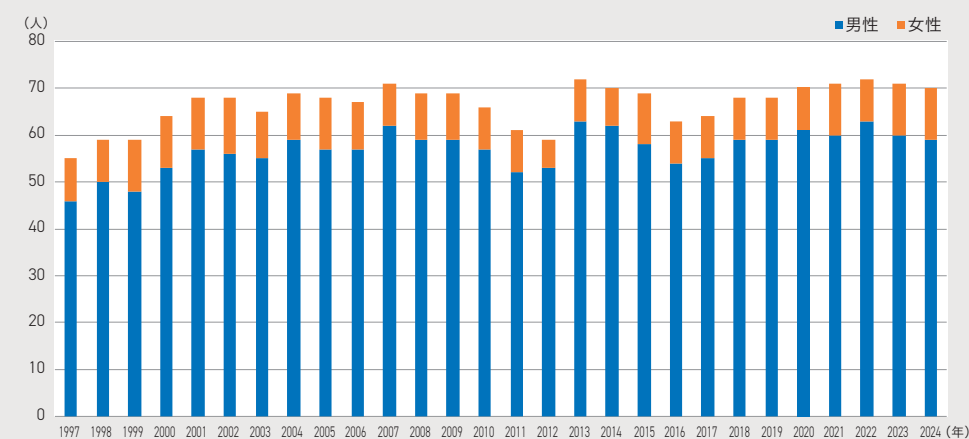
心に突き刺さる篇 (2016年～)

やり投げと弓道で「あなたの心に突き刺さる」を表現。アスリートのスタッフに登場してもらいました。

□入校生数の推移 (1979～2024)



□指導員数の推移 (1997～2024)



□運転免許免許学科試験(第1種)合格状況 (1999～2024)

年	県内平均	当校平均	順位	年	県内平均	当校平均	順位	年	県内平均	当校平均	順位
1999年	65.5%	77.0%	4位	2008年	83.6%	91.2%	8位	2017年	69.6%	97.9%	1位
2000年	71.8%	86.3%	2位	2009年	84.3%	95.9%	3位	2018年	69.0%	96.3%	1位
2001年	78.9%	94.8%	1位	2010年	85.6%	96.6%	1位	2019年	68.2%	97.2%	1位
2002年	79.2%	95.7%	1位	2011年	86.1%	97.0%	2位	2020年	70.2%	97.2%	1位
2003年		不明		2012年	86.3%	97.0%	3位	2021年	68.8%	98.1%	1位
2004年	85.1%	95.5%	1位	2013年	68.0%	91.0%	2位	2022年	81.0%	99.1%	1位
2005年	82.7%	88.0%	9位	2014年	68.1%	94.5%	2位	2023年	66.9%	98.1%	1位
2006年	82.8%	90.4%	6位	2015年	68.6%	96.7%	1位	2024年	66.4%	98.0%	1位
2007年	83.1%	86.3%	12位	2016年	70.6%	96.7%	2位				

不合格者を減らす取り組みで1位を目指しました!
(本年不合格者数は50名)